

8050問題を考える事業 2021 まとめ

実施団体：一般財団若者自立就労支援協会

助成：令和3年 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成金

2021年度の事業概要

2020年に引き続きWAM助成により実施

- ①ピアサポートカフェ 12回実施
- ②8050問題を考えるセミナー 5回実施
- ③冊子づくり 4月末発行 500部

生きづらさを抱える若者(不登校経験、不就労、ひきこもり、発達障害等)の家族(保護者・兄弟など)に対し、当事者に対する支援のみならず、その保護者、家族が悩みを打ち明けたり、居場所を見つける事ができるように以下の事を実施しました。

- ①保護者、家族の為の相談会・親サロン
- ②7040・8050問題を回避する為の勉強会(8050を取り巻く社会課題について、8050を支える制度について、介護と8050問題について、当事者へのアプローチ、など)
- ③啓発冊子の発行(当事者の家族が抱える課題や悩み、必要な支援についてを事例や情報を含めて冊子にする)介護施設、福祉施設、区や市の窓口への配架しました。

8050問題について当事者や保護者、8050予備軍としての不登校引きこもりの当事者の家族、また専門家と共に、8050問題とは何か?どのような解決の道すじがあるのかを考え実践してきました。

ひきこもり・不就労の子どもと高齢家族にとって大切なことは就労・自立をゴールにせず、緩やかなコミュニティの中で包摂され、様々な専門機関が連携して家族が少しでも人間らしく笑いをもって生きることができることです。

そのことを念頭に置き本人や社会に働きかけることによって、現実的な道筋がつけられていくと思います。

令和3年度 オンライン開催

8050問題を考えるセミナー

対象：不登校・ひきこもり・不就労など生きづらさを抱える若者のご家族/支援者

10月16日(土) K2グループの支援から考える若者支援と8050問題
13:30～ K2 インターナショナルグループ 代表 金森 克雄 氏

10月30日(土) 若者支援の視点から8050問題を考える
13:30～ 横浜市青少年相談センター 相談支援担当係長 児島 麒一 氏

11月27日(土) 8050問題と活用可能な社会保障制度について
13:30～ 藤沢市社会福祉協議会 常務理事 小野 秀樹 氏

12月4日(土) 介護現場からみる8050問題 パート2
13:30～ 社会福祉法人和みの会 理事 特別介護老人ホームなごみの園施設長 木内 菜穂子 氏

12月11日(土) 生きづらさを抱える子どもとお金について
13:30～ 横浜弁護士会 弁護士 井原 綾子 氏

申し込みはこちらから



<https://bit.ly/3sVLe0r>

開催場所：モンビル横浜根岸6階 (Live Box M6)
〒235-0005 横浜市磯子区東町15-32-6F

不登校・引きこもりに関するご相談 セミナーへのご予約・お問い合わせはこちら
☎045-750-0039

相談電話受付時間：月曜～土曜 11:00～19:00
上記時間以外は ☒ info@k2-inter.com にご連絡ください。

一般財団法人若者自立就労支援協会 横浜市磯子区東町9-9
☎045-752-5066 ☒ info@k2-inter.com

この事業は令和3年度 独立行政法人福祉政策推進機構社会福祉実践事業として実施しています。



JR京浜東北線 根岸駅下車 徒歩1分

事業全体の振り返りを実施し、放送大学名誉教授 宮本みち子先生にコメントを頂きました。
下記に全文を載せています。

8050問題を考える事業2021

宮本みち子
(放送大学・千葉大学名誉教授)



5回にわたるセミナーの結果をみてわかったことを整理してみます。

■8050問題—支援が届かなかった親子

8050問題の原因はひとつではありませんが、多くの場合子ども期や若者期に適切な手を打つことができなかつたか、放置されたまま年月が過ぎて子どもが50代に達してしまった現象だといえるのではないのでしょうか。手を打つことができなかつたのは、当事者の責任だけでなく、有効な支援サービスがないという問題があります。50代になった方たちは、精神疾患や発達上の属性をもっているか、学校時代あるいは職場でのいじめやつまずき、あるいは事件や事故のトラウマが高じて精神を病んでしまった方たちが多く含まれていると思われます。

このことに関係する聞き取り調査の結果を紹介します。地域若者サポートステーションが就職氷河期世代の支援事業に取り組むようになって2年が経とうとしています。就職氷河期に社会に出た40代に対象者を広げて、支援サービスに取り組むようになりました。サポステ中央センターに開設された専門委員会(主査:小杉礼子氏、筆者も委員)が全国16のサポステにヒヤリング調査をした結果によりますと、来所者には2つタイプがありました。第一のタイプは、職歴はあるのですが離転職が多い傾向がみられるタイプで、働く意思があり短期間のうちに求職活動を開始できる方が多かったです。第二のタイプは、障がいや精神疾患をもっているか、その疑いのあるタイプで、長期にわたる無業やひきこもりの状態を経由した方たちでした。

このタイプは大都市のサポステには非常に多かったのですが、その理由は大都市ではサポステ以外の専門機関が地方圏より豊富にあるので、来所者の利用先が分化したのではないかと思われます。いっぽう発達障がいや二次障がいを抱えたまま40代になっていると思われる方が、とくに大都市部のサポステには多くみられました。

よこはまサポステは就労困難な事情を抱える利用者が非常に多かったそうです。ちなみに40代前半の25人中、通算ブランク期間1年未満が8人に対し5年以上が17人(10年以上が12人)と、職歴の少ない方が多かったのです。サポステの対象年齢を広げた結果、第2のタイプの方の来所が多かったことに注意を払う必要があると思います。

サポステ担当者によれば、ブランクの長い方には、いわゆる社会人基礎力を身につける機会がほとんどなかったと見える方が多いそうです。また、多くの挫折経験のために自己肯定感が低い方や、自分のやり方・考え方に固執している方が多いという特徴もみられました。また、社会不信が強く卑屈になっている方も多くみられるということです。さらに、正社員になることの責任の重さや、やることの多さに対する不安が非常に強い点も職歴の少ない40代利用者の特徴だということです。

↓続く

どのサポステでも、若い頃にサポステを利用した方が、40代へと支援が拡張されたことを知って再び来所するようになった例もみられました。しかし、若かった頃と比べると、今後継続的にサポステを利用して就職しようというエネルギーがかなり低下していて、支援がより一層難しくなると感じられています。つまり、就労困難な状況が若い頃から40代まで続き、適切な支援を得ることができないで状況でより悪化しているのです。こうした利用者にとってサポステは唯一の拠り所になっているともいえるのですが、ここに至るまでにもっとできる支援があったのではないかと心が痛むとサポステ支援者はいうのです。統計上の「非求職無業者」は、就職氷河期世代にもその上の世代にもいます。しかし年齢を重ねるごとに増える傾向があることに留意する必要があります。では、今回の「8050問題を考える事業」から見てきたことを順に整理してみようと思います。

■働けるようになることを急がない

「働けるようになってほしい」というのは親ごさんの強い願いです。しかし中年に達した子どもさんに対してこのゴールは妥当なものとはいえません。ストレートに解決を求める(働けるようになる)のではなく、まずは出かける場所をもつこと、人と話をする、人の話を聞く時間をもつことから始めることが大事なことです。その先に、働くことにつながる多様な経験のステップがあればよいのです。それは就労という単一のゴールに限ることではなく、社会参加として重要な意味をもっていると思います。

ひきこもりから脱して社会と繋がったとして、その後自立に向けてどのような道筋が考えられるでしょうか。その道筋が見え、暮らしていける見込みが立てば、将来に希望をもつことができるはずです。K2インターナショナルは団体の内部にその道筋を作っている好事例です。それをみてみましょう。

■K2の場合

K2インターナショナルは、ひきこもっていた方が社会に復帰する仕組み・道筋を内部にもっています。勇気を出して実家を出て自立の道を歩もうとする場合に、まず規則正しい生活を取り戻すことから始まり、就職する以外に、つぎのような選択肢が想定され、本人の希望と実家の事情を加味して進む道を決めています。①ボランティアや有償活動への参加、②JスタッフとしてK2で働く、③アルバイトをする、④福祉就労と障害年金のセットで生活する、⑤親の経済援助を受ける、⑥K2の近くのアパート住まい、などです。大事なものは、生活の自立があり、K2の居場所と見守りがあり、社会的つながりがあることがセットとなっていることです。困った時にはいつでも相談できる方や場所(たとえばK2)をもっていることは何にも増して大切なことです。就職してフルタイムで働き、給料で生活することだけが自立だと考えるべきではありません。

フルタイムで週5日間働くことが難しい方もいます。このような方でも働けるように、働き方の多様化を進めることが必要です。そのためには既存の仕事を働き手の状況に合わせて切り出し、無理のない条件で働くことができるように働き手とマッチングする必要があります。

賃金、障害年金、福祉手当、K2内部の共同生活寮、グループホーム、地元アパート(地域移行)、食堂、のセットで生活することができるK2のしくみは、多面性をもった自立の道筋を示していると思います。これらが経済循環すればうまくいくのです。

■親が続けるべきことは、情報収集、家族会議への参加

生き難さを抱えてひきこもる子どもさんと長期に渡って暮らす親ごさんの苦しみは想像に余りがあります。そのような状況に負けないで親ごさんが心掛けるべきことは何でしょうか。それは家にこもらず視野を外に向け、状況を打開する道を探って情報収集につとめることです。そこに出会いがあり、打開の糸口が見つかるのではないのでしょうか。悩みを抱える親ごさんが集まり言葉を交わし体験からヒントを得るピアサポートは効果があったことがセミナーで報告されています。参加することが閉じた親子関係を広げる糸口になるだろうと思います。このような集まりをあちこちに作りたいものです。

なお、アンケート調査によれば、困った時に安心して相談できる機関としてK2をあげた人は多かった一方で、家計や老後のお金に関しては相談できる機関がないと答えた人が多数でした。軽視できないニーズとみて相談サービスを確立する必要があると思います。

■8050問題を打開する地域コミュニティ

社会とのつながりを回復するためには、地域コミュニティの連携による支援がなくてはなりません。セミナーで地域作りに取り組む藤沢市社会福祉協議会の紹介がありました。藤沢市は各地区にコミュニティ・ソーシャル・ワーカー(CSW)がいて、ひきこもり支援団体と連携体制をつくりつつあるそうです。CSWは、様々な困りごとを受ける体制づくりをめざしています。また、横断的な支援ミーティングを企画しています。いまある制度では解決しにくい困りごとを抱えている人に寄り添い一緒に考え解決に向けてお手伝いをするという取り組みが、8050問題の解決にも効果を発揮してほしいと思います。

8050問題を考えるこのような事業が多く地域に広がることを期待します。

セミナーまとめ① 10月16日(土)

「K2グループの支援から考える若者支援と8050問題」
講師 K2グループ代表 金森克雄

不登校への支援から始まったK2 30年の実践を経て

引きこもりの長期化による8050問題

解決ではなくつながる支援を・・・

離れること、あきらめることも大事

親の責任と覚悟 高齢化・長期化する前に・・・

セミナー要約の全文は団体ホームページと
8050問題を考える冊子に載せています。
<https://wakamono-jiritsu.com/>



金森克雄
1954年生 横浜在住 K2インターナショナルグループ(1988年
創立) 創立者 グループ代表

30年以上、不登校・引きこもりなど生きづらさを抱えた若者の
生き方・働き方支援に携わる。
①海外国内での共同生活②ミュージカル③ヨット大航海など、
今もユニークで実践的な活動に取り組んでいる。



セミナーまとめ② 10月30日(土)

「若者支援の視点から8050問題を考える」

横浜市青少年相談センター 相談支援担当係長 児島献一

- * 横浜市青少年相談センター/引きこもり総合相談窓口 ご家族からの相談が多い
- * 8050問題ご家族がどこまで繋がれるかわからないが**家族を支える支援**が必要
- * 青年期のような**階段を上る支援**は当てはまらない
- * 8050中高年の支援は**生活をいかに維持していくか**の支援
- * 様々な**支援があるが届いていない**問題(まずは区役所に相談に行してほしい)
- * マズローの5段階 生理的な欲求、安全確保は行政、所属や役割の欲求については行政は難しい、NPOなどの民間と連携しながらやらないとできない。
- * **多様なつながり(ご家族も)居場所と出番**のある地域をつくる
- * 引きこもり支援は総力戦



講師紹介

児島献一氏 横浜市青少年相談センター 相談支援担当係長
福祉系の大学を卒業後、高齢者施設で勤務後、横浜市に入庁。生活保護CW、精神保健福祉の相談員、こころの健康相談センターを経て、2021年10月現在 青少年相談センターで相談支援係長として勤務。

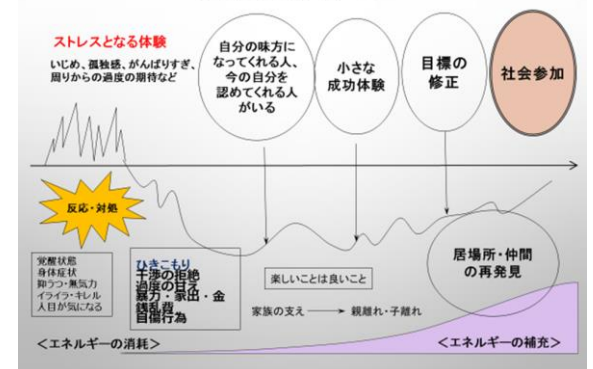
セミナー要約の全文は団体ホームページと8050問題を考える冊子に載せています。

<https://wakamono-jiritsu.com/>

多様なつながり(ご家族も)居場所と出番のある地域



回復の道すじ



セミナーまとめ③ 11月27日(土)

「8050問題と活用可能な社会保障制度について」 藤沢市社会福祉協議会 常任理事 小野秀樹

藤沢市社協での取り組み 引きこもり支援団体との連携

CSWの取り組み 様々な困りごとを受けられる体制

これからの方向性 社会福祉法の改正

新たに「重層的支援体制整備事業」を基盤とした**包括的な支援体制**ができる

介護、障害、子ども、生活困窮の各分野の既存の相談支援を一体として実施できる？

藤沢では**横断的な支援**ミーティングの企画



CSW
コミュニティ ソーシャル ワーカー

「どこに相談していいかわからない...」
「どのような困りごとでもご相談ください!!」

「相談するには？」
相談は無料です。まずはご連絡ください。電話相談や自宅等ご都合のよい場所に訪問し、相談を受けれます。

さまざまな生活の困りごと + 地域の困りごと

個別支援 + 地域支援

相談するには？
・新しい活動を始めたい
・講座等で交流する場がほしい
・地域貢献活動をしたい
など..

社会福祉法人 藤沢市社会福祉協議会
地域支援担当 コミュニティソーシャルワーカー
☎ 0466-47-8131
〒251-0054 藤沢市朝日町1-1
月～金(祝日年末年始除く) 8:30～17:00

Community Social Worker
コミュニティ ソーシャル ワーカー

藤沢市は、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現に向けた「藤沢市地域包括ケアシステム」の取り組みを進めるため、2016年4月より藤沢市内各地区にコミュニティソーシャルワーカーの配置を進めました。2020年度より市内13地区すべてにコミュニティソーシャルワーカーが配置されています。※「コミュニティソーシャルワーカー」は市の委託事業です。

【事務所】 阪本 結也
【湘南大庭】 持川 雅道
【相治】 石林 博恵
【辻堂】 北野 結之
【鶴沼】 吉岡 昌幸
【津田】 伊野 伸哉
【磯部】 村上 純子
【磯部】 坂本 拓也
【磯部】 二階 勇之
【六会】 矢野 佳代
【善行】 松本 美由紀
【藤沢】 伊藤 久乃
【片瀬】 村上 純子
【村岡】 石川 紗絵

社会福祉法人 藤沢市社会福祉協議会
地域福祉課 コミュニティソーシャルワーカー
☎ 0466-47-813
〒251-0054 藤沢市朝日町1-1
E-mail f-csw@fujisawa-shakyo.jp FAX 0466-26-6978
月曜日～金曜日(祝日年末年始除く) 8:30～17:00

講師紹介
80年より藤沢市役所入庁。経済部勤労市民課、片瀬市民センター長などを経て16年～藤沢市副市長 2020年～生活支援コーディネーター(藤沢市社会福祉協議会)
* 2010年頃、藤沢市において若者支援の取り組みを始める計画を検討するタイミングでK2グループと関わり、湘南・横浜サポートステーション、ユースワークふじさわなど現在の藤沢市の若者支援の取り組みにつながっている。

セミナー要約の全文は団体ホームページと8050問題を考える冊子に載せています。
<https://wakamono-jiritsu.com/>

セミナーまとめ④ 12月4日(土)

「介護現場からみる8050問題 パート2」

社会福祉法人和みの会 特別養護老人ホーム和みの園施設長 木内 菜穂子

- ◎コロナ禍での介護施設 四六時中消毒の日々、**地域とのつながりが薄れ**
- ◎高齢者の日常 受診控え、病気の重篤化、孤立、情報が入らない、支援者もたりない
- ◎サポステから介護施設に就職した若者 当事者の話 高田健吾さん
 - 長い目で見守ってくれた、**必要としてくれたこと、働いた事の実感**
- ◎その時は突然やってくる、**どうしたいか話しておくのが大事**
 - 何かのタイミングに家族で話をしておく事、支援者はどのような形ででも発信をすること



介護現場と若者支援

若者サポートステーションから和みの園に入社した高田健吾さんがセミナーに登壇し、当時の状況と和みの園に入ってどんなキャリアを積んできたのかを話してくれました。

4～5年引きこもって電車にも乗れなかったところから相談機関につながり、和みの園で少しずつ自信をつけて人とのつながりを作り、現在は正規職員として働き、コロナ禍での介護施設を支える一人として自分で考え行動している姿に会場からも多くの質問や激励の声がありました。



講師紹介

療養型病院にて相談員を経験後、現和みの園の立ち上げメンバーとなる。終の住処となる場所を作り上げたく「地域で最期まで暮らす」を理念とし、平成13年設立。介護課長を経て施設長に就任。施設内に「こどものへや」「地域食堂」、「つどいカフェ」を併設。高齢者施設でありながら多年代や他業種が集まる居場所づくりをしている。

セミナー要約の全文は団体ホームページと8050問題を考える冊子に載せています。
<https://wakamono-jiritsu.com/>

セミナーまとめ⑤ 12月11日(土)

「生きづらさを抱える子どもとお金について」

横浜弁護士会 弁護士 井原綾子

- * 社会とのかかわりが少ない人がお金の問題に直面するきっかけ
→ **家族が亡くなる事**(相続)であることが多い
- * 生活するためのお金がない→公的な支援
どんな制度が使えるのかについて、「誰に」「どこに」
相談すると良いのかをわかっておくことが大切
- * 生活していくのに必要な資金や収入があるが、金銭管理がうまくできない場合
→①お手伝いを受けながら自分で金銭管理 →②第三者に金銭管理を任せる
- * **誰に・どこに相談するのかを決めておく、伝えておく**
- * お金はあればあったほうがいいが、なくてもなんとかなる
- * **大事なものは人とのつながり** →家族がいなくなったあとは、
嫌でも他人とのかかわりが生まれることが多い。

講師紹介 井原綾子弁護士

平成23年 弁護士登録

神奈川県内を中心に多岐にわたる相談を受ける中、高齢の方、障害のある方の成年後見、財産管理、子どもにまつわる案件を多く扱う。児童相談所で非常勤の弁護士、未成年犯罪の弁護人なども担当。その他、不動産関係、離婚、相続、交通事故等様々な業務を行う。

セミナー要約の全文は団体ホームページと
8050問題を考える冊子に載せています。

<https://wakamono-jiritsu.com/>



参加状況



今年度は通年でピアサポートカフェを実施しました。

コロナ禍が続き、参加者は限定されましたが、感染対策やオンラインでの対応も駆使して実施し、多くの方が参加されました。

また支援者(相談員)もこの事業を認知して、いきなり解決を考えるのではなく、まずはピアサポートカフェで親御さん同士で話してもらうという選択肢を持たせた事は大きな変化でした。

対象者の年齢や状況に合わせて、サポーターとなる方を配置し、相談員なども入れて対応しました。

初めて人に話げできた、何をすべきかがわかった、共感してもらえて気持ちが楽になったなど、参加された方はとても満足されていました。

WAM事業終了後も自主事業としてこの事業は続けていく予定です。

8050問題

10代~40代までの不登校・引きこもり当事者の親御さんやご家族がご参加されます。

親御さん同士での気軽な場所です。緊張せずにご参加ください。

7040・8050問題にならないために...今できることは何だろう...

不登校・引きこもり・発達凸凹・家庭内暴力...
同じ経験を持つ親家族のための

ピアサポートカフェK2

開催日時: 基本毎月第二土曜日 (K2家族会のある日)

1月 8日 (土) 13:00~14:30

2月12日 (土) 13:00~14:30

3月12日 (土) 13:00~14:30

親御さん向けの勉強会も開催しています。詳しくはお問い合わせください。

開催場所:

モンビル横浜根岸6階 (Live Box M6)
〒235-0005 横浜市磯子区東町15-32-6F

不登校・引きこもりに関するご相談
ピアサポートカフェK2、セミナーへのご予約・お問い合わせはこちら

☎045-750-0039

相談電話受付時間: 月曜~土曜 11:00~19:00
上記時間以外は info@k2-inter.com にご連絡ください。

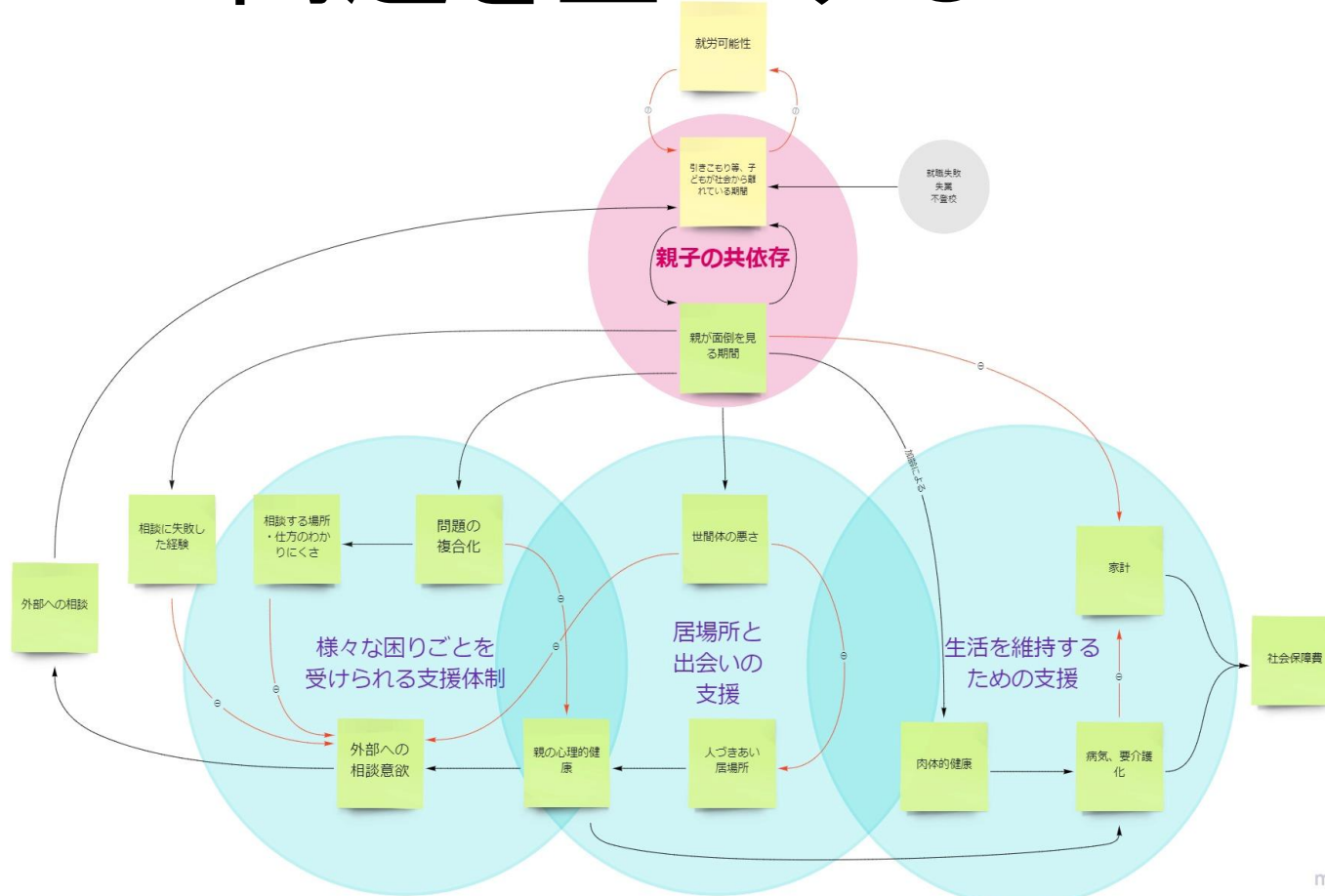


JR京浜東北線 根岸駅下車 徒歩1分

一般財団法人若者自立就労支援協会 横浜市磯子区東町9-9 ☎045-752-5066 ✉info@k2-inter.com

この事業は、令和3年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業として実施しています。

8050問題を整理する



調査・外部有識者
 合同会社Amahoro 代表社員 靄島一匡
 大阪市立大学 文学部准教授 菅野拓
 K2インターナショナルグループ 金伽耶
 新宅圭峰



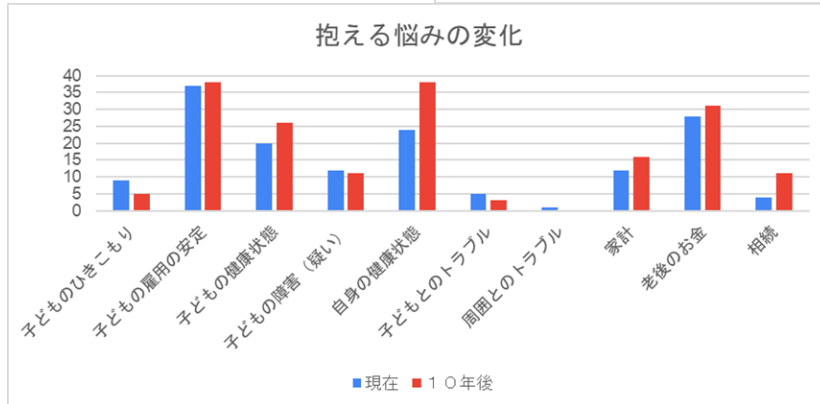
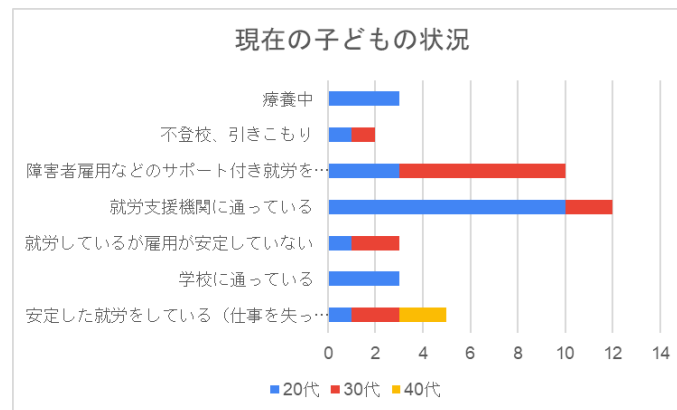
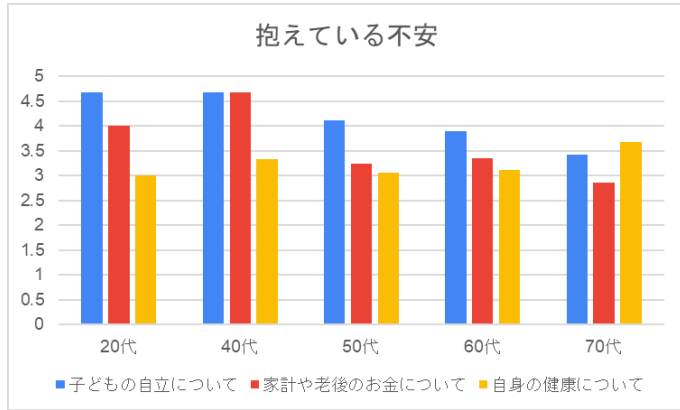
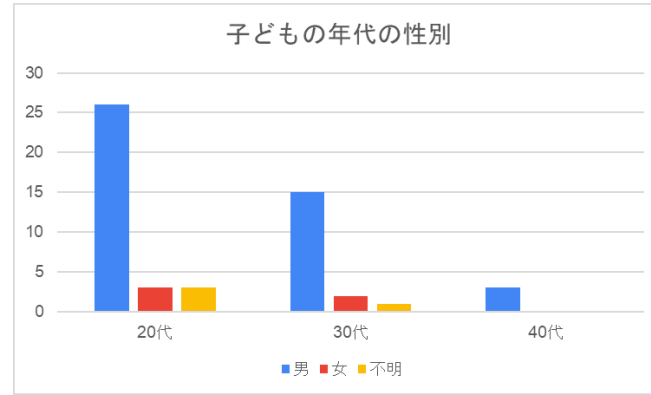
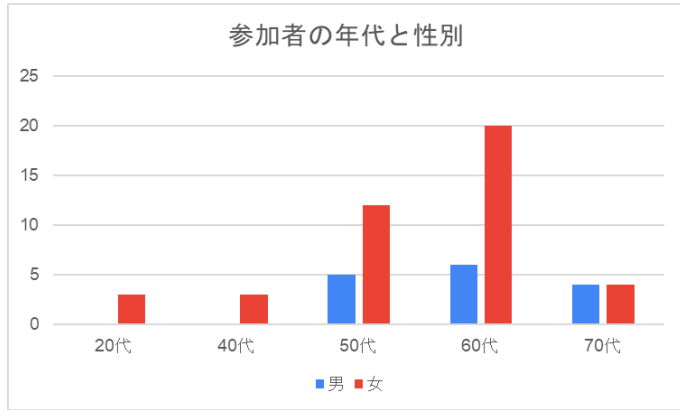
「8050問題」はどのようにして起こっているのかについて相談員・専門家・ファシリテーターを含めて議論をしました。

議論はオンライン+対面で月1回程度実施しました。
 8050問題を取り巻く課題を相談員から出してもらい、グループ分けしたのち、何がどう作用するのかについて考えていきました。

問題の核となっているのは働く事に困難を抱える子どもとその親が様々な問題から社会との距離を大きくして孤立していくことです。
 10代から不登校や引きこもりを繰り返して来た方もいれば、社会にでて働いていたところで問題に直面し、20代、30代になってから今の状態になり、10年、20年と長期間に渡り状態化している方もいます。
 親にとっても子どもが家にいる事で安心感や依存対象があり、共依存関係にあることもわかっています。
 このような状態からどのように解決の道を探せばいいのでしょうか？
 この事業を通じていくつかのヒントが見つかったように思います。
 まず、8050問題の渦中にいる方に対し、就労支援だけではなく、親子・家族を含めての生活の支援を中心に置くことです。若者支援や引きこもり支援では最終的に自立就労を目指す事が多くありますが、長期間引きこもりの状態にある方にいきなり働く支援をしてもうまくいかず、支援が途切れてしまう事が多くあります。まずは生活を立て直し、社会につながる事を目的にして支援をしていく事が大切だと感じました。
 また生活を維持するうえで必要な支援はすでに様々な制度がありますが、うまく当事者につながっていない現状があります。
 必要な支援が必要な方につながるためには制度を知る事も大事ですが、まずは様々な方とつながる事が大切です。
 支援につながるための居場所、人との出会いができる場を中心におき、つながりを切らない支援を作っていく必要があると思っています。
 現実は様々な機関が縦割りであったり、つながっていない事から当事者にはわかりにくく、つながりにくい現状ですが、今後の取り組みを考えていく上でのヒントになると思います。

まだ、8050問題は定義もあいまいであり、社会的な認識もできていないので、今後もっと議論をしていき、このような状況の方や家族に対して開かれた窓口や包括的な支援ができればと思います。
 わたし達は若者支援の実践の中でこの問題について取り組んできましたが、それには限界があり、介護やまちづくりなど様々なセクターと一緒にこの問題について取り組んでいかなければ問題の解決にはつながらないと感じました。

参加者へのアンケート集計



8050問題を考えるセミナー、ピアサポートカフェに参加した方にアンケートを実施しました。

わたし達の団体の性質上、若者支援の相談に来られる方や関係機関への働きかけにより参加した方が多いため、参加者の多くは8050よりも若い方が多く参加しています。

当事者の保護者が多く、20代～30代の引きこもりの子どもを持つ家族が多く参加されました。

ネットでの告知などでは8050世代の当事者も参加されましたが、年齢的にも来所やオンラインでの対応が難しい方が多かった印象でした。

子ども自立についての相談で来られている方ですすでに支援機関にはつながっている方が多いですが、現在は何とか子どもが支援機関につながっているが、自分が年を取っていく中で子どもの問題をどうしていったらいいかという不安を抱えて来所された方が多く居ました。

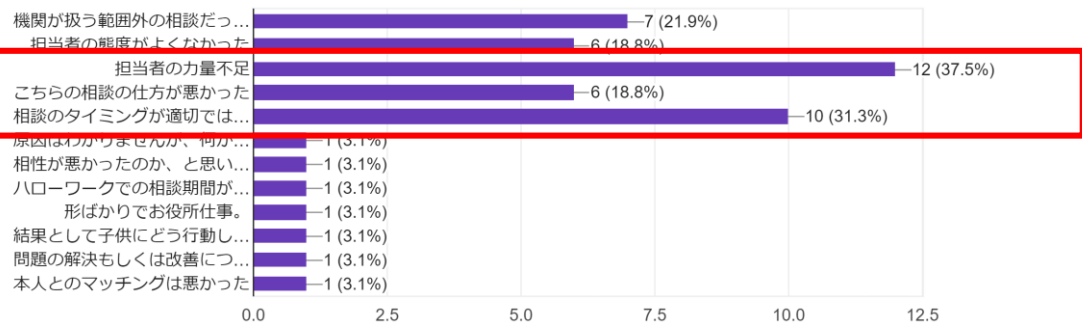
親御さんが抱える悩みの変化については、現在と10年後どうか？について聞いていますが、現状で子どもの問題が解決していないため、10年後も不安や悩みはあると感じているのではないかと思います。

更に親御さん自身の健康不安が大きくなるので、先行きに対する不安はとて大きいと感じているとわかります。

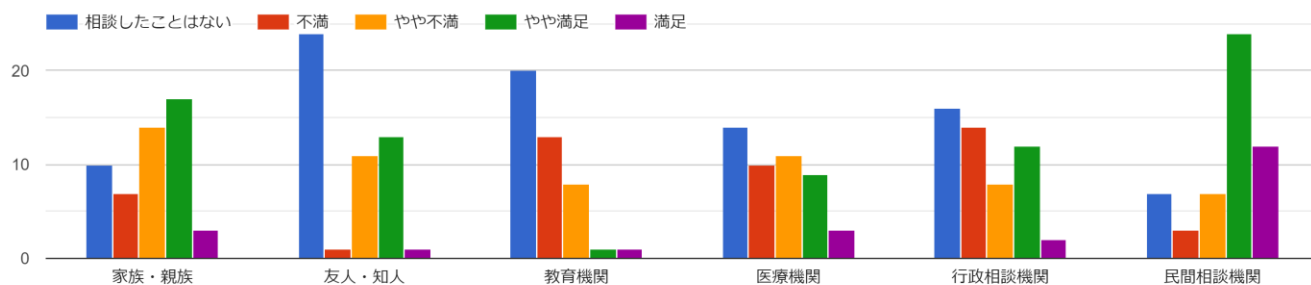
相談を検討している機関について悩んでいる点

(上記機関で行った「子どもの自立について」の相談...ますかあてはまるものをすべて教えてください。

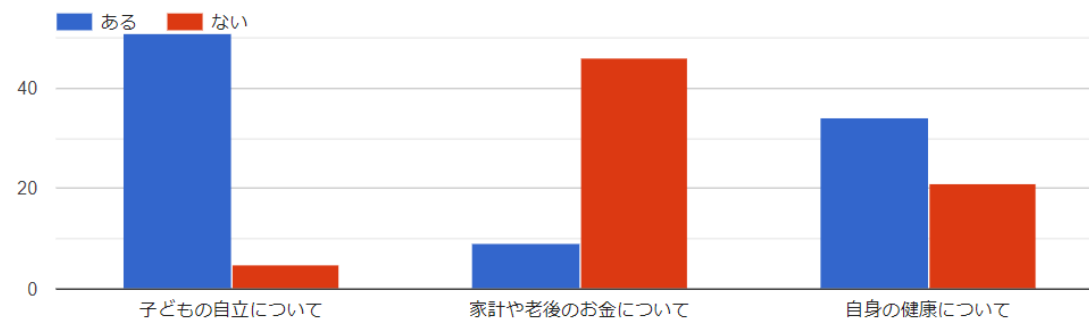
32件の回答



「子どもの自立について」相談したことがある相手と満足度を教えてください



あなたには、困った時に安心して相談できる機関がありますか。



分析の中でも相談窓口に行ったが、うまく支援につながれなかった方がその後支援につながる事を躊躇してしまい、8050に突入してしまうケースが多くあるとわかり、アンケートでも質問をしています。すでに支援機関につながっている方が来ているため、子どもの問題については相談できている方がほとんどでしたが、家計や老後のお金についてはどこに相談したらよいかわからない方が多いようです。どうして相談ができないのかを聞いた質問については、自分の悩みを相談できるかがわからない、また今が相談のタイミングかわからないなどが相談につながらない理由として多く上げられました。子どもの自立について相談したことがある相手として、相談したことがないと答えた項目に友人や知人が多く、身近な友人には相談しにくい事であることがわかります。また、教育機関には相談をしたことがない、また相談しても不満があったという方が多く、不登校など学齢期での支援で躓いた家族が多いと推測できます。

若者支援を通じて8050問題を考える

■8050問題は 若者支援の延長線上にあるが、若者支援のようなゴール設定はできない(特に就労自立ではない)

わたし達は10代の不登校支援から始まり、長年取り組んできた中で20代、30代のひきこもりや不就労の問題にも取り組むようになってきました。8050問題もその延長線上にあると感じていますが、40代、50代の方に対して、若者支援の手法をそのまま応用する事は無理があり、現場で悩みを抱える事も多くなっています。そのような中でこの取り組みを通じて一旦立ち止まって支援の在り方について考える事が出来ました。一人ひとり違いがあり、結論が出るわけではありませんが、8050問題や就職氷河期支援については若者支援のようなステップアップする支援の形は通用しない事は共通の認識として持てたと思います。

■8050のゴール設定は何か？→つながり先を確保する。

では、8050の支援はどこに設定すればよいでしょうか？現状での結論は「つながり先を確保」する事です。8050の家族がどこにもつながらず孤立したままに生活する事で様々な問題が起きています。その状態をどこか、誰かにつながり、問題があれば支援につなげるための手がかりを作る事がまず今できる事だと思えます。

しかし、その先の様々な支援もまだ手探りで物切れの状態です。誰かにつながってもそれがその人に本当に必要な支援につながるとは言い切れない状態ですが、まずはどこかにつながり、支援機関同士や支援者同士もつながっていく事が重要です。

■支援はすでにあるが、活用されていない事が問題

セミナー講師のお話に共通してわかったことはすでに様々な支援はあるという事です。しかし、実際に8050の当事者に出会った人が支援の存在を知らず、つなぎ方がわからない、様々な支援者が入っているのに大事どころはサポートされていないという事が多くあると思えます。コーディネートする支援者の力量が重要なポイントになるため、この点については支援者のスキルアップや制度化について取り組みが進んでいくことを願っています。

■若者支援現場でできること→予防すること

わたし達の立場では、8050になる前にどこかにつながることを努力していかなければと思っています。7040、6030で支援につながれば、親御さんも子どもも可能性が広がります。また、少子高齢化社会の中で、8040、7030と年齢差は開いていきます。子どもも親も動けなくなる前に必要な備えをする。若者支援の現場で8050問題を扱う事でその啓発活動になると思えます。

■緩やかな支えあいのコミュニティーとしてK2の取り組みがモデルに

わたし達K2インターナショナルグループは緩やかな支えあいのコミュニティーを横浜を中心に各地に作っています。これは8050問題の一つの解になるのかもしれませんが。昔ながらのコミュニティーを見直す取り組みが増えています。私たちもこれからの時代の新たな支えあいのコミュニティーを作っていきたいと思っています。8050問題を考える事で改めて若者支援の必要性やこれからの取り組みの方向性が見えてきました。今回の事業はその手掛かりになったと思えます。